

国文学研究

第百七十五集

『花鳥余情』が説く『源氏物語』のことばと心

河野 貴美子 1

——「漢」との関わりにおいて——

近世初期一首懐紙

高梨 素子 17

—— 故実と実態 ——

枕山と如亭

池澤 一郎 32

—— 放浪詩人の承譜 ——

〈書評〉

加藤定彦著 『関東俳壇史叢稿——庶民文芸のネットワーク』

金田 房子 49

新刊紹介 彙報 編集後記

前 号 目 次

『源氏物語』の本文校訂をめぐるつて 陣野 英 則 1

——「須磨」巻の「くしとらする」攷——

『源氏物語』の朱雀院と「この道」 平 田 彩奈恵 13

——引歌における「型」の問題——

子規俳論の挫折 田 部 知 季 24

——明治二十九年前後における俳論の流行をふまえて——

「性格破産者」言説批判のタミミノロジ 永 吉 和 隆 36

——広津和郎「二人の不幸者」と江口渕「性格破産者」——

〈書評〉

中田幸司著『平安宮廷文学と歌謡』 藤 原 茂 樹 47

平田英夫著『和歌の想像力と表現の射程——西行の作歌活動——』

宇津木 言 行 50

名木橋忠大著『立原道造新論』 林 浩 平 55

新刊紹介 彙報 編集後記